

鋼製床下地が好評

学校や老健施設で採用増加

ワンシステム

きかず、手直しも大掛かりになる。さらには根が防水層を食い破るといった懸念もある。一方のEGフロアリングでは躯体の上にシステムを載せるため、躯体への影響が小さい。

土はスギとヒノキの樹皮から作ったEソイルを使用。比重は一般的な土の半分なので軽く、害虫が寄り付きにくかったり排水口が目詰まりしにくい特長もある。

設計価格は1平方メートルあたり4万円(税抜き)。ウッドデッキ市場がおおむね3万8000円から4万円円で推移しているため、それぞれの差別化を含めた競争力は十分あるとみている。

開発したイーコットの本田麻姫さんは「病院では外出が難しい患者もおり、施設内のテラスで植物に触れながらリハビリしたいという要望も少なくない」と説明。ケワンシステムの矢野昭洋営業部長は「人工と自然の融合したEGフロアリングによって、より優しい空間を提供できれば」と話している。

ケワンシステム(本社・札幌)の鋼製床

下地「Kーデッキ」の採用が広がっている。

小学校や老健施設の建築工事が道内各地で増えていることもあって、ウッドデッキを用いたテラスやスロープの下地材として実績を伸ばしている。この頃は緑化資材会社のイーコット(同)と、Kーデッキを用いた屋上緑化システムを共同開発。メンテナンスのしやすさなど長所を前面に、病院や社会福祉施設などで広く使ってもらいたい考えだ。

屋上緑化製品の共同開発も

Kーデッキは、メー
ンフレームに日新製鋼の
ZAMを用いた床下地
材。さびや耐食に優れる
特長を持つ。

支持脚には万協(本社
・東京)のスラブロック
を採用。エポキシ接着剤
を注入しながらボルトの
回転止めとスラブを同時
に固定し、高い耐震性を
確保する。ウッドデッキ
化システム

どの組み合わせで、1平
方メートルあたり500kgの耐
荷重を誇る。

2014年は函館の老
健施設や札幌の私立大、
東京都内の商業施設など
で導入実績を持つ。平ら
な床だけではなく、傾斜

Kーデッキの応用型と
して共同開発した屋上緑

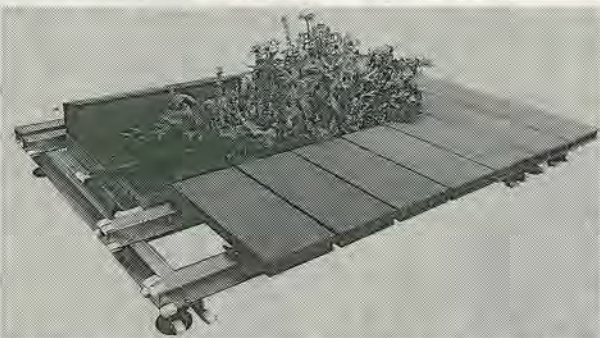
のあるスロープや曲線が
特徴のテラスといった難
しい工事もあったが、職
人の確かな腕と経験則で
こなしてきた。

12年から検討を重ねて
きたイーコットとの共同
開発品「EGフロアリン
グMk1」も実を結ぼ

うとしている。第1号は、
札幌市手稲区の病院増築
に採用されることが決ま
った。

EGフロアリングMk
1はKーデッキを下
地材に、花壇部とウッド
デッキをユニット化した
製品。花壇部の器は厚さ

1・6mmのZAM
Mでできてお
り、耐食性に優
れる。シーズン
オフの冬場はデ
ッキと入れ替え
られるなど、再
レイアウトしや
すいのも特徴
だ。



メンテナンス
のしやすさが最
大の特徴。従来
型の緑化工事の
場合、躯体の上
に直接土を盛る
のでやり直しが